

# 授業研究部

## 本年度の取り組み

- ①国語科、算数科において、目指す児童像に迫る意識や指導の共通化を図るべく、指導案に話合いの計画や話合いのめあてを明記するようにした。
- ②国語科、算数科において、使用するノートを学校として統一するように図った。
- ③授業において、児童の「振り返りの視点」を明確にし、全校で共通理解を図った。
- ④主任層の教員の師範授業から学ぶ機会を設けるため、師範授業を広く公開するよう図った。
- ⑤授業形態として、複数の学年でT・Tや習熟度別学習を活用して授業を行った。

## 成果

- ・授業研究部やブロック学年にて、授業研究を行い、研究授業を実施することで研究授業前に議論や研究を深めることができた。
- ・グルーピングの意図を明確化し、話し合って取り組むねらいをもって取り組むことができた。
- ・昨年度から引き続き、研究授業において授業を見る観点をもつことで、協議会で具体的な話合いができた。また、活発な議論から具体的な手立ての例を出し合うことで、研究を深めることができた。
- ・授業の終末に振り返りの視点をもって、「振り返り」を書くことを本年度においても継続したことで、児童も振り返りを書くことが定着してきた。
- ・国語においては、言語事項に焦点化して研究することで、視点を絞った研究を行うことができ、語彙力を増やすことができるなど、実感をともなった成果を得ることができた。

## 課題

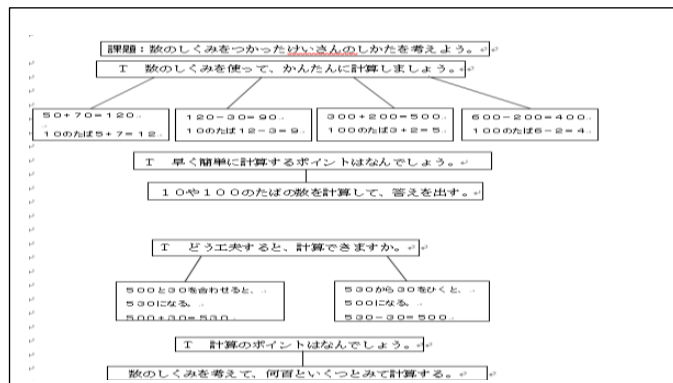
- ・グルーピングの組み方（回数は何回行うか、形態はどのようにするか、人数は何人が適切であるか、同質グループか異質グループか）をもっと研究するべきところではないか。
- ・話合いにおいて、低・中・高学年でどれくらいできるようになるとよいか、めあてや目標のようなものがあると、指導の基準になるのでよい。また、スパイラル的に段階を踏めるようなめあてや目標になると、研究が深まる。
- ・ユニバーサルデザインの視点から、ICTの活用や視覚的にわかりやすい教材を活用していくとよい。

【指導の共通化】国語科・算数科において計画的に話し合いを行う。  
指導案上に明記する。

国語

<p>④あて既習事項である漢字には、音を表す部分と意味を表す部分があることを想起させるようにし、習っていない漢字においても読みかきができることに気付かせる。</p> <p>5 学習した内容をまとめ</p> <p>⑤ 評価場面 (学習活動に即した評価場面) アの①、オの② (評価方法) 学習に取り組んでいる様子や態度の観察 ワークシートの読記内容の考察(手立て) ⑥どの点に注目してまとめたのか考えるよう助言する。 ⑦本時で学んだことを確認する。</p>	<p>せる。</p> <p>☆全体交流において、より多くの児童の意見を知ること、考えを深めさせるようにする。</p> <p>・詳細に正対したままとする。</p> <p>○まとめの仕方 ○求の他にも、形が一緒で音も同じ漢字がある。</p>
---	--

算数



【国語科・算数科のノートを学校で統一する】

	国語	算数
1年生	1冊目 6マス×4行→8マス×6行 2冊目 10マス×7行	1冊目 5×4マス→10×6マス 2冊目 14マス×10行
2年生	12マス 18ミリマス 12×8 十字リーダー入り	17マス 12ミリマス 12×17
3年生	18マス×12行	5ミリ方眼
4年生	12行リーダー入り	
5年生	15行リーダー入り	
6年生	15行10ミリ縦罫	

【話し合う集団を意図的にグルーピングする】

5年生の研究授業では、単元テスト、県学調、授業等の学習状況を考慮して、3人組のグルーピングを行った。

ねらいは以下の通りである。

- ・議論が活性化され、課題解決ができる
- ・3人グループにより、一人一人の役割が明確になり、主体的に課題解決に取り組むことができる。



【振り返りの視点の明確化】

低学年

<p>ふりかえりのポイント</p> <p>①わかったこと、きづいたこと ②ぎもんにおもったこと ③もっと知りたいこと ④ともだちのかんがえからおもったこと</p>
---

高学年

<p>振り返りのポイント</p> <p>② わかったことや気づいたこと ②疑問に思ったこと ③これから考えていきたいこと ④友だちの考えから深まったこと、考えが深まったこと</p>
--